

子どもたちの明日

Children, Our Future

140 号

目次

- ・ 保育者の手引書の制作
～幼児教育担当者が力を
あわせて～ 1 頁
- ・ 絹絵餅ピダン展示会開かれる 2 頁
- ・ 新設「村の幼稚園」
～保育者の経験を活かして～ 4 頁
- ・ CYR 情報 4 頁



手引書の使い方研修

保育者の手引書の制作 ～幼児教育担当者が 力をあわせて～

2024 年度は保育事業の集大成として「地域幼稚園の保育者の手引書」が制作されています。この手引き書は、保育の専門の勉強をしたことのない保育者が教育省のカリキュラムをよく理解し保育の仕事を進めていけるよう、わかりやすい説明と教材の紹介や実践的な具体例を示すことを目的にしています。保育者が日々の保育計画を準備し、子どもたちの遊びと学びを充実させるためです。

この事業は、本会与コンボンチュナン州教育局との契約を基に州教育局が事業の予算やスケジュールの執行管理を行い、計画に沿って進めています。

5 州の担当者の作業チーム

手引書の配布先は 5 州 46 郡の地域幼

稚園です。プロジェクトの作業チームには、会の元保育アドバイザー・ソパニーさん、コンボンチュナン州教育局幼児教育事務所、6 郡の幼児教育担当者とタケオ、カンダール、カンポットとプルサット州の教育局幼児教育担当者が参加しています。5 州の担当者が意見をすり合わせ協議したことで、保育者が理解しやすい具体的な活動例の考え方を共有することができました。各州の郡ごとの保育者の研修・手引書の配布時にも、作業チームのメンバーから直接郡担当者、保育者に手引書の内容、使い方の指導ができます。

チームは 5 月から 7 月の間の 35 日間の会議を開き、手引書の内容を検討しました。作業は 5 つのグループごとの検討結果を全体で再度話し合っ決めていく方法で進めました。手引書の主な内容は、教育省の地域幼稚園カリキュラムに沿ったクメール語、算数、身体の動き、理科、社会科の 5 科目の活動の目的や実

践的な具体例と実施方法です。現在、公立幼稚園と地域幼稚園の規準に沿った運営と認定された幼稚園では、7 時から 10 時 30 分の保育を行っています。今後全ての地域幼稚園も 5 科目 1 日 3 時間 30 分のカリキュラムを使う教育省の方針が示されているため、この手引書もその方針に沿った内容でまとめています。

保育計画がつくれた！

最初の 1 ヶ月分の内容が完成した 5 月には、手引書を使ってみる 1 日ワークショップを郡ごとに開催しました。コンボンチュナン州の 6 郡の幼稚園の保育者 235 名が参加しました。実際にこの本を使って 1 ヶ月間、それぞれの幼稚園で保育実践をしてもらい、その内容やまとめ方に対する意見を聞き取りました。その結果、保育者が保育の日案、科目ごとの活動計画を立てるのにとっても役に立つという声が多くありました。カリキュラムの中の科目の活動のスケジュールに



認定 NPO 法人
幼い難民を考える会
CARING FOR YOUNG REFUGEES



合わせた活動例をたくさん入れてほしいというものです。科目の目的に沿った活動が詳しく書かれているので、まず活動の目的への理解がしやすくなります。今までよくわからなかった保育活動の目的の作り方や、その目的に沿って活動ごとに具体的な教材例が示されているので、どんな教材を使ったら良いかもわかるようになりました。教材を作るアイデアが出てきたと話す保育者もいます。子どもの歌や詩、物語もたくさん手引書に加えてほしいとのリクエストもありました。

そして今まで知らなかった教え方、活動指導の手順と指導の流れの説明もされていますので、とてもわかりやすいとフィードバックがあります。特に遠隔地の幼稚園の保育者は、指導方法がわからずにいましたので、手引書を見て活動の目的を決めて、指導の手順や流れに沿って自分で作った日案を元にして教えられるようになります。更に子どもへの対応、ことばかけ、保育者のやるべき活動、子どもの活動のなどわかりやすく書かれているので、準備がしやすくなります。

それぞれの州で手引書の研修のための打ち合わせに参加した郡の幼児教育担当者からのコメントもありました。いくつかの活動では、今までに考えつかなかった内容とその遊び方、指導方法が示されていて、具体的な保育の計画づくりへの理解が深まったと話しています。保育者が手引き書を使って子どもたちの遊びを充実させるためのゲームや教材を作れるようサポートしたいと。



作業チームで手引書の内容を検討

「村の幼稚園」事業も参考に

この手引書から、幼稚園管理委員会メンバーや地域の住民たちも、自分たちの幼稚園の環境や保育内容をどのように改善していけるか具体的な取り組み方を知ることができます。その参考のために、ソパニーさんは手引書の中で「村の幼稚園」事業についてもページを割いて説明しています。地域幼稚園の規準に沿った運営方法、環境整備、保育者の研修の仕方、保護者の協力、運営委員会の勉強会などの具体的な活動を照会し、それぞれの地域で同様な活動への実施につながることが期待されています。

プロジェクトチームは、この手引書が保育者の助けとなることを確信しています。保育者の日々の保育計画づくりを助け、子どもへの対応・指導力が高められることを期待しています。同時に「村の幼稚園」事業の実践が保育者や郡の担当者の幼稚園運営へのヒントになり、保育者の仕事だけでなく更に幼児教育の大切さや地域の幼稚園運営への理解と協力が深まることを願っています。

絹絵紺ピダン展示会開かれる

6月に、青山の国連大学 1 階の地球環境パートナーシッププラザの展示スペースをお借りして、カンボジアの伝統絹絵紺ピダン展を開催しました。織物技術研修事業の一環として制作されたピダン11点が4週間にわたり展示されました。

女性の自立を

織物技術研修は、1993年に保育所に通う子どもの母親を対象に、収入向上事業としてクロマー織りの指導から始まりました。自宅で家事や子どもの世話をしながら織物の仕事をする事によって副収入を得て、毎日の食事や子どもの学校に必要なものを買うなど、日々の生活の助けになります。2003年からは織物研修センターを絹織物の盛んなタケオ州に開設し、地域の女性が様々な織物研修に参加しました。初心者向けの1年間の紺織技術研修、新しい紺模様を習得するための3ヶ月のコース、織物の盛んな地域に出向き、草木染めや新しい紺模様を実際に括る短期の講習会などです。中でも伝統絹絵紺ピダンの技術研修では、

高い括りの技術を持つ織り手に対して、人や動物の形などの複雑な模様をバランス良く括り染める技術の習得を目指しました。

伝統の絹絵紺ピダン

絹絵紺ピダンはカンボジアの伝統織物のひとつで、カンボジアの文化や伝統の奥深さ、技能の素晴らしさを象徴しています。仏教説話や生命の樹、龍などの動植物、船柄など様々な絵模様が綾織で織り込まれ、世界でも稀な織物です。古くからカンボジアでは、お寺にピダンを奉納し、お盆や葬式、結婚式などでは、家に飾る風習がありました。人々は、ピダンが仏像を守るように自らが仏に守られ、平穏無事に生きられるよう無病息災の願いを込めました。

技術の復興と新風

2013年から会は、コンポンチャム州の女性グループと一緒に、廃れていたカンボジアの伝統藍染め技術の復興事業を始めました。1998年に行った藍染め地域の調査では、昔はコットンの紺も藍で染めていたと染まった緯糸を見せてくれた人もいました。ポルポト時代に5人組で綿糸を染めて藍染めクロマーを織り、革命組織に納めていたおばあちゃんたちにも会いました。カンボジアの伝統的な藍作りと同じ製法で藍の色素を沈殿させて作る沖縄の専門家を招聘し、技術指導を行いました。昔、家族や村で藍染めをしていたのを見て育った藍染めグループの女性は皆働き者で、メコン川沿いにある肥沃な土地に藍を育て良質な泥藍を作ることができるようになりました。2019年には、目標としていた年間収入を上回る一人平均1300ドルを得られるようになりました。今年も藍の葉が育ち泥藍作りが始まろうとしています。タケオ州の紺織の熟練した織り手によって、藍の濃淡で複雑な模様を染める新たなチャレンジがなされ、藍染めによるピダンも制作されました。



伝統の絹絵紺にもオリジナルデザインの作品が生まれました。織物研修のトレーナーをしていたスーン・ミットさんは、2003年から紺織の技術指導を行う傍ら、かつて寺院の壁画を書いた経験を元に、仏教や寺院に関する新たな絹絵紺のデザインをいくつも考案しました。乳海攪拌のデザインを繰り返しの模様ではない1枚絵柄に収まるよう計算し、糸を括って染め、模様に合わせて糸を括り別の色に染めてということを繰り返し、括りと染めに10ヶ月をかけて960もの括りで模様を完成させました。

織物環境の変化

カンボジアには寺へのお参りや結婚式などに昔から欠かせない絹の紺地で作った長いスカート、サンボットホールがあります。しかし、染料のラック・カイガラムシやフクギの樹皮も、森林伐採や生息環境の変化でカンボジアでは採取が難しくなっています。また昔から絹の産地で知られているバンテイミエンチエイ州の村でも、絹糸を紡いで生産する農家の多くは廃業してしまいました。2010年頃から首都プノンペン近郊には多くの縫製工場ができ、定期的に現金収入が得られるため、タケオ州の農村の女性たちも工場で働く機会を

得て、織物を習いたいという希望者は減少しました。コロナ禍にはカンボジア事務所に併設した織物製品のショップ運営も難しくなり、2020年に織物事業を終了しました。

ピダンへの願い

6月の展示会では伝統的なピダンのほか、藍染め「海の模様」や「波模様」の4点やASEAN Selection 2016を受賞したオリジナルデザイン「乳海攪拌」も展示されました。ピダン展にご来場いただいた方々からは多くのコメントをいただきました。

自然染色の美しい色あい、模様の括りと染めの細かく複雑な工程に驚き、根気のいる作業に感動した、柄の細かさ、ストーリーの感じられるデザインに感銘をうけたと。同時に、高度な技術の伝承の難しさを案じている方もいらっしゃいました。幸い、カンボジア政府は近年、伝統織物の保全と継承のため生糸作りや若い人が織物技術研修に参加できるような事業に予算をつけるようになってきました。これからもCYRで学んだ研修生、先生方が素晴らしい作品を織り続けていくことを願っています。

新設「村の幼稚園」 ～保育者の経験を 活かして～

2023 度末で、支援していた 8 村の幼稚園全てを無事地域に移管し、カンボジアの保育事業を終了することができました。中でも 2023 年に開園したコンボンチュナン州の 3 園は 1 年足らずの支援でしたが、3 名の保育者を中心に自主運営が始まっています。

カンダール村では、以前から小学校の敷地内に公立幼稚園のクラスがありましたが、二つの村からの子どもの数が多く、地域幼稚園も開設することにしました。地域からお金を集めて屋根と床の基礎は出来あがっていたので、CYK は壁の部分と新しいトイレを支援し、園舎は完成しました。村から選ばれた保育者は「村の幼稚園」ができる前からボランティアで子どもを教えており、出産前でしたが、20 日間の自前研修に出席し、クラスの教材や飾り付けも綺麗に行いました。快適な教室で教材も充実しているし、子どもと接することに慣れている先生がいるので、自主運営に移行した時期には、公立幼稚園より「村の幼稚園」の子どもの方が多くなりました。

トゥルポンロー村の幼稚園の男性の先生は、小学校の授業になかなかつい



モニタリングなどの様子：カンダール（左上）トゥルポンロー（右上）、コホロート（下 3 校）

ていけない子どもたちに長年ボランティアで教えていました。子どもたちとのコミュニケーションを取るのがとても上手です。教材作りも得意で、新しい教材を工夫して次々に制作し、他の村の幼稚園から注文があるほどです。

コホロート村の先生は、幼稚園管理委員会メンバーでもある兄の勧めで地域幼稚園の保育者に応募しました。地区評議会から交通費を得て 2022 年に CYK の 20 日間の事前研修を受け、村の集会所で子どもたちを教え始めていました。先生は地域の方々から幼稚園への理解と協力を金をお願いするのが上手で、園舎の地盤整備に欠かせない盛り土が集まり、ボランティアで働いていただく

こともありました。その後 CYK が支援を決めたので、2023 年の事前研修にも参加しました。

保育者は 3 名とも子どもたちの指導経験があったこともあり、仕事へのモチベーションを持って取り組んでいます。幼稚園管理委員会も地域の人たちの協力をえて、園庭の盛り土、塀づくりなど幼稚園の環境づくりや保育のモニタリングなどを通して保育者を盛り立てています。

また管轄の郡の幼児教育担当者たちも、1 年足らずで自主運営に移行した事情に配慮し、地域幼稚園の基準に沿った運営記録作り、保育の日案・月案作りの指導、学習コーナーの活用等、特に力をいれて指導を続けています。



CYR 情報

5 月 25 日に開催された第 23 回定時総会において、プノンペン事務所(CYK)の解散と、幼い難民を考える会(CYR)を解散する方針が承認されました。CYK はカンボジア当局による監査中です。11 月発行予定の次号ニュースレターで進捗をご報告いたします。

子どもたちの明日 140 号

発行日：2024 年 9 月 30 日 発行者：関口 晴美

特定非営利活動法人幼い難民を考える会(CYR)

Email: info.cyrtyk@gmail.com URL: <https://www.cyr.or.jp/>

プノンペン事務所(CYK)

Email: info@cyk.org.kh